

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

人から認められることの喜び・勉強がわかることの楽しさ・様々な個性との触れ合いを体験することにより、生徒が自分の将来を創造する意欲と能力を身につける学校をめざす。

- 1 基礎学力の定着を図ることで、自己実現できる人材を育成する。
- 2 自尊感情や規範意識をもち、自ら判断し行動できる人材を育成する。
- 3 多様な価値観を認めることができ、人と協働できる人材を育成する。
- 4 生徒の地域貢献活動や地域人材を生かした教育活動などを通して、地域と連携する学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1、基礎学力を定着させる取り組み

## (1) 学習活動の充実

- ア 生徒が主体的に学べるように、アクティブラーニング授業を推進する。
- イ より生徒の学習意欲を高めるようシラバス等の改善を進める。
- ウ 基礎学力を向上させるための教材づくりに取り組む。
- エ 生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む。

## (2) 分かる授業、充実した授業づくり

- ア 授業力向上のために、研究授業や授業見学を積極的に実施する。
- イ 全教科でICT機器や視聴覚教材等を活用した授業の導入を推進する。
- ウ 授業アンケート・学校教育自己診断・基礎力診断テストを分析し、授業改善につなげる。
- エ 生徒が発表する機会の多い授業づくりに取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断で「授業理解」の肯定率（平成 28 年度 43%）を 2019 年には 50%以上にする。

## 2 自尊感情や規範意識を育てる取り組み

## (1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成

- ア 基本的生活習慣について、より丁寧な指導を行うことで、学校への定着を図る。
- イ 部活動や学校行事を通して、コミュニケーション力の育成に努める。
- ウ ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取り組みにより、生徒の自尊感情を育成する。
- エ LHRや総合学習での学びや体験を通して「他者への思いやり」ができる社会人としての基礎力を身につけさせる。

※生徒向け学校教育自己診断で「先生の指導」の肯定率（平成 28 年度 44%）を 2019 年には 50%以上にする。

## (2) 生徒理解の促進と相談体制の確立

- ア 常時、関係者間で生徒情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
- イ 生徒の実態把握のため、家庭連絡・家庭訪問に努め、中学校とも連携する。
- ウ 外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。

※2019 年までに中退率を 8%以下にする。（平成 28 年度 12.7%）

## 3 人と協働できる人材を育成する取り組み

## (1) 夢と志を育むキャリア教育の確立

- ア 3年間のキャリア教育、進路指導を体系的に実施することで、進路決定率を保持する。
- イ 外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について考える意識を育てる。
- ウ インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の進路実現を促進する。
- エ 部活動や「体育コース」を充実することで、規律正しく協調性のある人材育成を促進する。

※2019 年まで、卒業時の進路決定率 85%以上を継続する。（平成 28 年度 85%）

## 4 地域と連携するための取り組み

## (1) 地域との連携・交流

- ア 生徒一人ひとりの状況を把握し、適切な支援を実施するために、保護者・地域・中学校と連携する。
- イ 清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。
- ウ PTA活動を活性化させ、保護者と教職員が力を合わせた学校づくりを進める。

## (2) 広報活動の充実

- ア 学校HPを更新し、本校教育活動についての情報発信を充実させる。

## 5 学校の運営体制に対する取り組み

## (1) 学校改革の推進

- ア 研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続させる。
- イ より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒、保護者については、「泉尾」と「大正白稜」両校の質問項目も異なるため、分けて実施した。教職員は、全教職員統一で実施した。</p> <p>【生徒アンケート】</p> <p>・「授業に工夫」の肯定的回答が 76% (H29 : 69%)、「授業理解」の同が 68% (52%) と大幅に上昇した。相互授業見学や教員主体の授業改善ワーキング主催による校内研修</p>	<p>【第 1 回 7/25 開催】</p> <p>・リーディングスキル（文章を読み取る力）は、とても大切で良い取り組みである。リーディングスキルを実施している学校は全国でどのくらいあるのか。→テストは、今年度開始で公表されていないのでわからないが、科目を開講し</p>

## 府立泉尾高等学校

の成果と捉えられる。また「リーディングスキルテスト」を全教員が受験したことも影響が大きい。

・「生徒会活動」に関する同が76% (50%) と上昇した。この数年、生徒会担当者が生徒の実態に合った内容となるよう工夫してきたことの成果である。また、「先生の指導」や「評価」への肯定的回答が約7割であり、生徒と教員の信頼関係の醸成されていることも背景にあると思われるが、一層その構築に努める。

## 【保護者アンケート】

・「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」の肯定的回答82%、(H29:55%) 「先生は、子どもの相談に気軽に乗ってくれる」が同81% (H29:72%) と学校への一定の信頼が見られる。

・「行事・PTA活動等への参加」が、同60%(H29:21%)と他の設問より低い。家庭環境に関する外部連携の必要な教育相談事例が2ケタを超える中で、家庭内の親子のコミュニケーションの減少も背景にあるのではないかと考えられる。保護者の教育内容への理解や興味を引出し、家庭でのコミュニケーション増加の方策を検討したい。今年度HP担当者が広報に関する一般研修を受講。中学生への広報活動のみならず、保護者や地域へのわかりやすい広報活動をすすめていく。

【教職員アンケート】今年度教職員アンケートは改編したため経年変化を図るのは難しい。改編の内容は、本校が生徒に身につけさせたい4つの力(考え抜く力、協働する力、一歩踏み出す力、創造する力)を育成する手立てをとっているか、という設問を加え、既存の設問を精査した。

・「各分掌や各学年の連携が有機的に機能している」の肯定的回答が57% (H29:65%) と減少。改編の影響もあるが、首席の役割の明確化や運営委員会等各種委員会の機能をより強化する必要がある。また、ミドルリーダーとなる教職員を核に互いに学びあう職場をより高めていく必要がある。

ているのは、おそらく本校のみと思われる。

・リーディングスキルなど大変すばらしい教育内容を行っているので、HPの充実など広報を充実させてはどうか

→充実させていく。また広報についての知識を得ていく。

・先生方の取組みを生徒にいかにも効果的に伝えるかという観点で、クラス掲示の方法を見直してはどうか？(具体的には、全クラス、進路情報はこのエリアというふうに場所の固定化など)

→精査の上、検討していく。

・校務を遂行するなかでの先生方のキャパシティの問題が挙げられる。職場環境の改善という観点でも配慮すべき

→社会問題としても取り上げられており、今後委員会等の指示のもと、配慮改善していきたい。

## 【第2回11/19】

・生徒相談の内容をどのように保護するのか。

→個人の相談や情報等、パスワードをかけたリ、鍵付の金庫で保管している。

・第1回でも出た意見だが、職員のスタッフ数と職務のバランス(時間外勤務数)は、保たれているか。

→今後、学校運営協議会委員の方などにも人的スタッフの協力要請など外部機関への働きかけをおこなっていく。

・総合学科1年目の科目選択においてどのような点が課題か。

→個別のガイダンス業務に時間と人が必要。

## 【第3回2/14】

・教職員の経験校数等についての状況はどうか。

→本校が初任である先生の割合が多い。

・総合学科への転換による生徒の変化についてはどのように感じているか。

→変化が感じられるのは、選択科目が始まる2年目以降となる。

さまざまな新しい取り組みにより、生徒との距離は近くなった。

・生徒自らが「調べる力」を身につけさせる取組みが必要ではないか。

→小中学校での取り組みが土台となって、更なる仕掛けが重要。

・各種検定受験の結果内容についてはどう考えるか。

→受験者は少ないが、次年度から授業内でも受験を促す指導。

・中学3年生の学校説明会への参加率について状況は？

→昨年度より若干少ない傾向。定員に達する努力は必要。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を定着させる	(1) 学習活動の充実	ア・グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせるアクティブラーニング授業導入の推進。 イ・各種検定の受験を推進し、資格を取得することにより、生徒の自尊感情を高める。	ア・生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率60%以上(H28:52% H29:69%) イ・各種検定の受験者数150人以上を維持し、目標200名。	(1) ア、「授業に工夫」の肯定率76%(前年比7P+) (◎) イ、検定受験者数75名(英検16名、数検10名、漢検24名、ワープロ検定25名) (△)
	(2) 分かる授業、充実した授業づくり	ア・授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ・校内や他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ・授業見学週間を設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。	アイウ ・生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率50%以上(H28:43% H29:52%)	アイウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率68%(前年比16P+) (◎)

## 府立泉尾高等学校

2 自尊感情や規範意識を育てる	(1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	<p>ア・生活面で生徒を指導するにあたっては、生徒に寄り添う気持ちを持って粘り強く取り組む。</p> <p>イ・LHRや総合学習の時間を中心に、「他者を思いやる心」を育てる取り組みを充実させる。</p> <p>ウ・より多くの生徒に、地域清掃を体験させることで、社会の一員である事を自覚させ、自尊感情を育成する。</p> <p>エ・文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化や校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断で「先生の指導に納得」の肯定率を50%以上(H28:44% H29:52%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を65%以上(H28:58% H29:65%)</p> <p>ウ・清掃活動に参加する生徒の率を45%以上(H28:43% H29:50%)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率50%以上(H28:48% H29:63%)</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断で「先生の指導に納得」の肯定率71%(前年比19P+) (◎)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率76%(前年比11P+) (◎)</p> <p>ウ・清掃活動に参加する生徒の率50%(前年比±0P) (○)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率76%(前年比13P+) (◎)</p>
	(2) 生徒理解の促進と相談体制の確立	<p>ア・生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ・生徒の実態把握のため、中学校訪問や家庭訪問に積極的に取り組み、保護者、中学校、地域との連携をより強化する。</p> <p>ウ・要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率55%以上(H28:47% H29:59%)</p> <p>イ・進級卒業率を前年度より3%上昇させる。(H28:83% H29:84%)</p> <p>ウ・当該生徒に十分な指導がなされ、進路を決定できたか。</p>	<p>(2) アイウ 生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率60%(前年比1P+) (○)</p> <p>イ・進級卒業率87.8%(前年比±3.8p) (◎)</p> <p>ウ 配慮の必要な生徒に関するケース会議を11件23回実施した(○)</p>
3 人と協働できる人材を育成する	(1) 夢と志を育むキャリア教育	<p>ア・職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。</p> <p>イ・外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みを充実させる。</p> <p>ウ・部活動の加入率を上げる。</p>	<p>ア・就職内定率100%、進路決定率85%以上を維持。(H28:88.5% H29:85.7%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を70%以上(H28:66% H29:73%)</p> <p>ウ・部活動加入率を25%以上(H28:31% H29:28%)</p>	<p>ア、就職内定率100%、進路決定率94.7%(H28:88.5% H29:85.7%) (◎)</p> <p>イ、生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率79%(前年比6p+) (◎)</p> <p>ウ・部活動加入率30%(前年比2p+) (○)</p>
	(2) 広報活動の充実	<p>ア・ホームページ等による情報発信を充実させる。</p>	<p>ア ・定期的に更新できたか</p>	<p>ア・定期的に改編、更新した(○)</p>
4 地域と連携する	(1) 地域との交流	<p>ア・地域イベントやインターンシップ、進路行事など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。</p> <p>イ・学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれによりPTA活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア・年間5回以上の交流機会を設けることができたか。</p> <p>イ・体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数の増加5%以上(H28:319名 H29:376名)</p>	<p>ア・年間11回以上の交流機会を設けた(◎)</p> <p>カ・体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数10%増加(泉尾・大正白稜 H29:376名 H30:415名)</p>
	(2) 広報活動の充実	<p>ア・ホームページ等による情報発信を充実させる。</p>	<p>ア ・定期的に更新できたか</p>	<p>ア・定期的に改編、更新した(○)</p>
5 学校の運営体制	(1) 学校改革の推進	<p>ア・全教職員が「自らも学校づくりに参加している」という意識をもてる取り組みを進める。</p> <p>イ・計画的な教職員研修の実施</p> <p>ウ・学年が連携した学校運営</p> <p>エ・教育環境を改善するための学校施設、設備の充実</p>	<p>ア・教員の学校教育自己診断で「教職員の意見が反映」の肯定率50%以上(H28:42% H29:52%)</p> <p>イ・年間5回以上の職員研修を実施できたか</p> <p>ウ・教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率63%以上(H28:57% H29:65%)</p> <p>エ・1年間に3件以上改善できたか</p>	<p>ア・教員の学校教育自己診断で「教職員の意見が反映」の肯定率76%(前年比24p+) (◎)</p> <p>イ・職員研修年間10回実施(◎)</p> <p>ウ・教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率57%(前年比8p-) (△)</p> <p>エ・4件実施(○)</p>